

Techno Report

No.207

冬のエアコンこれだけはしてほしい 3ポイント+1

1. フィルターの清掃

フィルターを掃除することで吸い込みや吹き出しの負荷を下げるができるため、電気代を節約できます。冬場は、コートやマフラーなど夏に比べてほこりが舞う頻度が多いため、フィルターは汚れやすくなっています。

年末の大掃除の際、エアコンのフィルターも掃除することをお勧めします。

2. 室温は19℃から20℃に

部屋を適度に暖かく保ちながら電力消費を抑えるためには、室温を20℃前後にするのがポイントです。この温度は、環境省も推奨する快適かつ省エネ効果のある温度帯とされています。

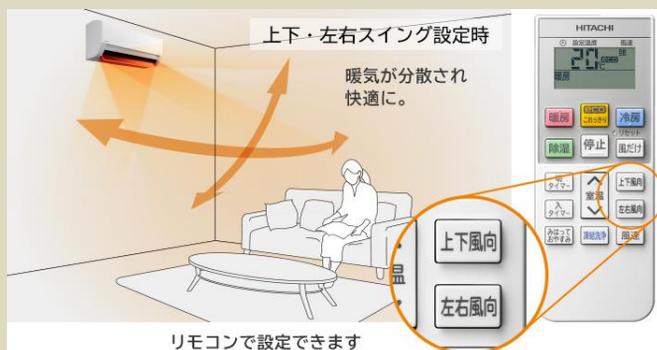
設定温度を1℃下げることにより消費電力を約10%抑えられるため、室温を20℃目安に保つことで暖房効率も良くなり、電気代も節約できます。



3. 風向きは下向きに

温かい空気は軽いいため自然と上にたまりやすく、足元が冷えやすくなります。そのため、エアコンの風向きを下向きに設定すると、温かい空気が部屋全体に広がりやすくなり、効率よく暖められます。

また、スイング機能を設定して空気を循環させると、さらに均等な暖房効果が得られるため、快適さが増します。



+1 加湿器と併用して湿度を保つ

冬場は湿度を保つことで、より暖かく感じることができます。

夏に除湿するだけで涼しく感じるように、冬場は加湿するだけで暖かく感じやすくなるため、エアコンだけでなく加湿器を併用するのが効果的です。

湿度が低いと寒さを感じやすいですが、湿度を50～60%に保つことで体感温度が上がり、設定温度を抑えていても暖かさを感じられるようになります。

裏面に続く

エアコンの耐用年数

【家庭用】

家庭用エアコンの耐用年数(寿命)は10年が目安とされています。この根拠は2つあります。

1つが、設計上の標準使用期間(経済耐用年数)です。これは、標準的な使用条件において使用した場合に支障なく使用できる期間のことを指します。国内の主要メーカーの多くは**標準使用期間(経済耐用年数)を10年**と定めています。

もう1つが、補修部品の最低保有期間です。全国家庭電気製品公正取引協議会によって、エアコンの部品は、製造打ち切り後9年以上と定められています。メーカーによって異なりますが、概ね10年前後で保有期間を終了しています。

【業務用】

業務用空調設備の税法上の耐用年数は一律ではなく、ある一定条件のもとに「建物付属設備」に該当するのか、「器具・備品」に該当するのかで変わってきます。

ダクトなどを通じて広範囲にわたって空調できるタイプの業務用空調設備は「建物付帯設備」に該当し、それ以外は「器具・備品」となります。

「建物付属設備」の耐用年数は15年、その中でも冷凍機の定格出力が22kW以下の空調設備の耐用年数は13年と定められています。一方で「器具・備品」の耐用年数は6年です。

自社ビルなどであらかじめダクト配管されていて建物と一体化している空調設備は原則15年(ただし冷凍機の定格出力が22kW以下の場合には13年)、賃貸オフィスなどで入居時に自ら購入・取付けする空調設備は6年と覚えておくとよいでしょう。

急な故障で慌てないためにも、耐用年数が過ぎた空調設備のリニューアルを是非ご検討ください。空調設備の更新によって省エネ効果も期待できます。

詳細は弊社担当者までお問合せ下さい。

発行 藤田テクノ株式会社 テクノレポート発行委員会

2024年12月発行

〒370-0069 群馬県高崎市飯塚町1174-5

本社 TEL 027-361-8111 FAX 027-329-6221 太田支店 TEL 0276-46-1348 FAX 0276-49-1156

埼玉支店 TEL 049-279-3011 FAX 049-279-3012

URL: <http://www.fujita-tec.co.jp>

本紙は弊社よりの納品書等の郵送時に同封させて頂きますので重複等が発生する事がございます。予めご了承下さい。